

鈴鹿の風 平野 泰治 議員

上下水道事業の経営戦略について

(質問) 市民生活に欠かせない上下水道事業は、中長期的な経営戦略が必要である。しっかりと経営実態を示し、健全な経営を目指すべきではないか。

(答弁) 現在、経営戦略の策定にあたって、経営審議会で経営基盤強化に向けた方針等について審議している。上下水道事業は、管路・施設の更新や耐震化など、厳しい経営環境にある。現状のままでは、上水道事業は平成30年度以降

運転資金が確保できなくなる。公共下水道事業は収支不足により、市の一般会計からの繰入金が必要な状況が続き、農業集落排水事業は、料金収入では維持管理費も賄えず、さらに繰入金への依存度が高くなっている。

審議会からは、安定的な事業経営に必要な自主財源の確保に向け、料金などに係る受益と負担の在り方の検討が必要との意見も出されており、少量使用者への配慮も含めた料金の在り方についても審議している。これらを踏まえ、事業経営の透明化を担保し、検証可能な経営戦略を策定する。

市民クラブ 市川 哲夫 議員

ごみの不法投棄について

(質問) 本市における不法投棄の現状は。また、不法投棄に対してどのような対策を行っているのか。

(答弁) 平成28年度、廃棄物対策課が通報を受けた不法投棄は98件であり、年々減少傾向を示している。また、不法投棄された品目は家庭ごみなどが最も多く、半数近くの約46%を占め、

家具や布団などの粗大ごみが約20%、テレビ・冷蔵庫などの家電4品目が約15%となっている。

ごみの不法投棄防止対策については、各関係行政機関や地域、民間事業者などとのさらなる連携強化を図り、市民への啓発活動と監視パトロール活動を粘り強く行い、不法投棄をしない、させない環境づくりを進める。

また、本市は監視カメラを15台設置しており、不法投棄が多発する箇所や大量・悪質な不法投棄が発生した箇所などに優先して設置している。

自由民主党 山中 智博 議員 鈴鹿市議団

地域づくりの当事者意識について

(質問) 本市では現在、全地区での協議会設立に向けて地域づくりの取り組みを進めているが、一体性のある“まちづくり”には、愛着や誇りといった帰属意識が必要と考える。一方、市内には約7,300人、58カ国の外国人住民がおり、小中学生数では過去最多の678人と定住化が進んでいる。本市ではこれまで、「多文化共生推進指

針」を策定するなどし、先進的に取り組んできたが、地域づくりにおいて外国人住民に求められる役割は。通訳職員の派遣など、地域の課題解決にはさらなる支援が必要ではないか。

(答弁) 外国人住民にも、市民としての権利を保障するとともに、地域づくりの主体としての責任を自覚し、積極的な参加を求めている。今後は鈴鹿国際交流協会と密接に連携し、多国籍化・多言語化に対応するための相談体制の強化や、インターネットを活用した通訳サービスの提供も検討したい。

リベラル鈴鹿 森田 英治 議員

雨水対策について

(質問) 総合雨水対策基本計画の策定状況と施設整備の進捗状況は。

(答弁) 計画の策定状況は、主要な下水道排水区などを勘案して30ブロック程度に分割し、浸水被害の状況、施設の現状、流域特性などの基礎調査を実施している。これを踏まえ、全市的な中長期課題と地域的な個別課題の抽出整理を

行い、整備目標の設定、重点区域の選定を行った。平成30年度には、広く意見を聞き、公表を予定している。

護岸整備の進捗状況は、北長太川が約56%、稲生新川が約63%となっている。金沢雨水幹線は、第1期区間1,692mの内、約525mが完成しており、約31%の整備率となっている。平成32年度には、加満洲川との合流箇所まで進める予定であるが、1年余り遅れている。遅れを取り戻すべく、工夫していく。

その他の質問 ○中勢バイパスについて